



働きづらさを抱える方を  
受け入れるにあたっての  
留意事項

# 04

## 働きづらさを抱える方を受け入れるにあたっての留意事項

### POINT 1

#### 受け入れるための心構え

##### 個性の把握

働きづらさを抱える方を受け入れる際には、特に障害・疾患などを有する当事者（以下、当事者）がどのような個性を持っているかを把握し、支援する者の間で、情報を共有することが不可欠です。

情報の共有に関しては、当事者が所属していた福祉施設等の担当者が把握している情報を含め、支援者間で共有し、就労支援に役立てます。

※障害者の障害特性等に関する情報は、個人情報にあたるものであるため、情報の共有の際にも、情報の取扱いには特に注意が必要となります。

##### 居場所をつくる

就労支援の初期段階において、特にひきこもり状態にあった方などにとっては、何かを求められたり、否定や批判をされることなく、そこに居るだけでよいとされる場を用意することが最初のステップとなります。

特に自己肯定感を失い、「生きていていいと思えない」ほどに絶望している当事者にとっては、「働こう」「自立しよう」と言ってもあまりにそれは遠いことといえます。まずは安心して参加でき、「ここに居てもいい」と思える場で、自己を肯定できることなどから始めることが大切になります。

##### 小さな成功体験を積み重ねる

社会的な環境を要因として働きづらさを抱える方は、その期間が長ければ長いほど自信を喪失し、周囲が自分に対して否定的な見方をしているという先入観を持ってしまっているケースが多く見受けられます。

なるべく細かく目標を設定し、達成感を繰り返し感じられるプログラムを組むことで、自己肯定感を回復させることが重要です。



**POINT 2**

**研修受入にあたっての留意事項（働き方や作業の工夫）**

働きづらさを抱える方の中には、特定の分野には非常に優れた能力を発揮する一方で、ある分野は極端に苦手といった凹凸が生じることがあり、それが働きづらさの要因となっている方がいます。このような方の場合、その個性をよく理解し、その方にあったやり方で作業や働き方を工夫することができれば、農業を通じて、個々人が持っている本来の力がしっかり生かせるようになります。

**◆泉州アグリ（大阪府泉州地域）工夫例：サポート側によるレベル別作業分解**

管理	草引き	手で引く	野菜の苗と、草との区別がついてるか
		鎌を使う	軍手着用、危ない使い方をしていないか
		草刈り機	周囲の確認、エンジン始動、使用方法等を理解できているか
	水やり	ジョウロを使う	苗の状況によって水やりの量等の変更必要
ポンプを使う		ポンプの使用法、設置方法等理解できているか	
畑作り	土を混ぜる	クワ作業	クワの使い方を理解できているか
		トラクター耕運	使用方法、畑の状態等、状況判断が必要
	肥料を撒く	手で撒く	まんべんなく散布できているか
	耨を作る	クワ作業	土をあげれているか
	筋切	筋を切る	まっすぐに切れているか
	ミソを作る	クワ作業	高低差を含め、水の出入れ
定植	種植え	直接播く	何粒植えか。野菜別マニュアル必要
		機械播き	使用内容を把握、理解できているか
		ポットに播く	確認必要。1ポットに播く量、抜けているところはないか
		土を敷く	圧縮しすぎないように注意
	定植する	培土をかぶせる	完全におおわれているかどうか
		穴付き機	まっすぐに通っているかどうか
		苗を配る	株間ごとに配布、不良苗等チェック必要
		種を植える	種の向き等確認必要（豆類等）
管理	管理	覆土をかぶせる	圧縮しすぎないように注意
		機械定植	使用方法、畑の状態等、状況判断必要
		剪定	注意必要。野菜熱に剪定方法が異なる。
		芽かき	
		間引き	主となるものを間引かないよう注意
		追肥	一定の量を散布できているか、直接肥料が苗にあたっていないか
	農薬散布	片おろし	削りすぎてないか、浅すぎないか
		テラー機	使用方法、畑の状態等、状況判断必要
		粒剤	直接、手で触れないこと、手袋着用
		液体	希釈倍率注意、マスク着用、直接手で触れない。まんべんなく散布
収穫	収穫	動力噴霧器	使用方法、畑の状態等、状況判断必要
		ハサミ収穫	収穫適期収穫。収穫する際のマニュアル必要
		鎌で収穫	収穫適期収穫。収穫する際のマニュアル必要
		包丁で収穫	収穫適期収穫。収穫する際のマニュアル必要
		運搬	作業効率、状況等によって変更
		サイズ調整	収穫適期かどうか出荷サイズ確認
収穫の判断、管理		管理運営	

ステージ1	障害者がすぐにでもできる
ステージ2	障害者が少し訓練すればできる
ステージ3	障害者が時間をかけて訓練すればできる

## POINT 3

## 研修受入にあたっての留意点(伝え方の工夫と器具の工夫)

## コトバによらない指示(曖昧さの回避)

言葉では理解づらい作業について、説明板に作業方法を書いたり、実際に実物を見せることで、理解の曖昧さをなくすようにしましょう。また、作業予定や指示内容を指示板で示すことによって、当事者自らの確認を促します。個人毎の作業予定表を掲示したり、コンテナ等に個人名を表示することによって、当事者が自分の担当作業の内容や作業の進捗状況を確認しやすくする一方、監督者も当事者の作業能力の把握に役立てることが可能となります。

## ルールの明示 一般に関する指導

危険の回避等の仕事に関する注意事項や職場生活に関する決まり事等、就労する上で守らなくてはならないルールを明文化し、当事者が見やすい場所に、はっきりと理解しやすい形で掲示するとよいでしょう。一つのことに集中すると他への注意が不足したり、指示や注意を受けると過度に緊張してしまう場合がありますので、あらかじめ守るべき注意事項を目につく場所に掲示することで当事者の意識を向けることができるようにしましょう。

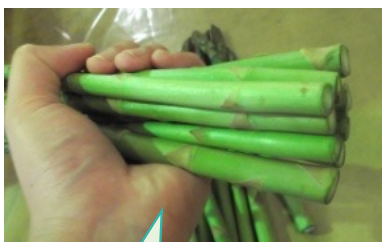
## 作業器具の工夫

農作業の過程において「何cmくらい」「何gくらい」という曖昧な指示をすることがありますが、経験のない者、当事者によっては判断することが難しい場合があるので、適宜作業器具を工夫するとよいでしょう。

例えば「目盛りに目印をつける」「スケールの目安が分かる器具を用意する」などといった工夫を施すことで指示が明確となり、結果として作業効率を高め、誰でも作業がしやすくなります。

## 北海道小清水町

## JAこしみずの実証実験における工夫例



「作業台にトントンと「作業台にトントンと数回やって、アスパラの下の部分を揃えてください」とお願いしたところ、問題のない多少のずれでも揃っていると、トントンを何度も繰り返してしまいました。



「揃える」のではなく、「作業台に3回トントンしてください」と指示内容を変更。3回トントンと作業内容が明確になったことで、スムーズになりました。

「150gぐらいの束にしてください」とお願いしたところ、150gの許容範囲がわからず戸惑わせてしまいました。

ハカリの150～160gに赤く目印をつけ、その範囲であればOKと伝えると、作業がスムーズになりました!



Case Study

安芸市農福連携研究会での工夫事例：  
写真やイラストに加え、動画のQRコードを掲載し、作業を細かく解説している。

1

農作業を切り分けした各農作業の紹介用  
施設ナスの主な作業 安芸市農福連携研究会 R2.1/21

**施設ナスの年間作業**

**定植** 定植は8月下旬～9月上旬 [動画はこちら](#)

植穴準備

ポット購入苗

深さ調整

浅植で

**10a 当たり**  
植付本数：約900本  
作業時間：5時間程度  
(以下作業時間は10a当たり)

ポット土が見える程度

すぐ灌水

**芽かき** [動画はこちら](#)

要らない芽

全て除去

**要らない芽を！**  
期に除けておく  
作業時間：5時間程度

2

生育促進や  
樹勢のコントロール  
作業時間：17時間程度

一方の葉先を摘む 主枝数分糸莖を 上の葉摘みをする

**摘葉** [動画はこちら](#)

分枝の下部分

ていどい

**摘葉後**  
異化した葉は要らない  
病気が発生し易くなる  
作業時間：4時間程度

**マルチ**

土壌水分や地温の  
安定、除草効果  
作業時間：

ブラックマルチ

白黒マルチ

3

摘心（一芽）  
着果負担の軽減と  
次の芽の発生促進

摘心 摘芽 花+1葉の上で摘心 要らないわき芽を除去

[動画はこちら](#)

収穫と一芽切り戻し

小さい果実は収穫しない  
(75g以上の果実を収穫)  
収穫する果実は摘った時に  
①ガクの部分が隠れない  
②指が回りきれない

切り戻しをしないと  
①枝先へ先へ果実が付  
き良い果実ができない  
②葉っぱが繁すぎて良  
い果実ができない

次の枝  
この部分が伸びて次の花が咲き  
果実がなります

4

収穫と一芽切り戻し

果実がなっている側枝の  
元をたどる 主枝から一番近い芽を  
残してカット

葉ごと枝をカット 果実だけにカット ヘタの5mm上を  
カット

コンテナに入れる (例) 水を溜めて外へ出す

[動画はこちら](#)

まだまだいろいろな作業の  
切り分けや効率的な作業方  
法があると思いますので、  
教えて下さい！

(例) こんなんもあります

